

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4390100206		
法人名	有限会社 ゆうしん		
事業所名	グループホーム錦ヶ丘		
所在地	熊本市東区錦ヶ丘26-11		
自己評価作成日	平成30年2月16日	評価結果市町村受理日	平成30年3月30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/43/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなろ福祉サービス評価機構
所在地	熊本市中央区南熊本三丁目13-12-205
訪問調査日	平成30年3月13日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

同敷地内に居宅支援事業所、デイサービス、訪問入浴、小規模多機能ホーム、特定施設入居者生活介護と当グループホームの6事業所があり、行事などで利用者、家族、職員を含めて合同開催し交流を図ることで利用者が楽しんで生活を送れるよう努めている。ホーム内では、介護サポーターの方に週に1回来ていただきレクリエーションや外出行事に参加して頂いている。また、地域連携室が中心となり、地域との交流や行事参加を行うことで地域との連携が出来るような関係作りに取り組んでいる。身体面でも訪問看護と24時間の連携体制をとっており、急変や体調不良時には他部署の看護師と連携を行うことで安心した生活を送っていただけるようにしえんを行っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

県下でも有名な桜並木が徒歩圏内にあるホームは、特定施設やデイサービス・小規模多機能ホームなどの複合施設の一つとして、入居者へ質の高いサービスの提供をモットーに日々業務にあたった。開所時から地域の中の一員となれるよう努力を重ねており、秋祭りには地域連携室が中心となり決して広くない会場であるが、心のこもった催しにより多くの参加があり、ホーム入居者も楽しいひと時を過ごされている。他の部署との連携による健康支援や、今年度は系列施設1階にあるレストランへの食事に出かけるなど、法人の機能を活かしながら入居者の現状を支えている。定期的な傾聴・レクリエーションボランティアや介護サポーターの受け入れも入居者の活動や楽しみの幅を広げている。桜やつつじの花見に加え、施設前の道はケヤキ通りでもあり、年間を通して緑の変化を楽しむ環境である。今後も地域の良さを生かしながら入居者の笑顔を引き出す支援に努めていかれることを期待したい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念の掲示を行い、朝礼時に唱和する事で理念を共有し、実践して行けるよう取り組んでいる。	平成18年の開設時から、地域の中の事業所として運営に努め、法人やホーム理念の掲示、唱和により実践に活かせるようにしている。また、案内資料の中にも、ホームが重要視している取り組み4項目をケア規範として記している。職員採用時には、これらの内容やグループホームの役割を説明し、意識を持って業務にあたるよう指導している。	理念の掲示や唱和に加え、今後どのような支援が理念を活かした取り組みとなるのか、また、それぞれの職員が理念を実践に活かしているか、など、振り返る機会を持つことも必要と思われる。取り組みに期待したい。理念をよりかみ砕いた月目標の設定などもよいと思われる。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域連携室を中心とし、会社全体で(利用者も)地域行事に参加している。	季節ごとの散歩や日用品、食料品などの購入場所、公共施設などが身近にあるホームであり、努めて戸外に出かけたり、地域の人々と交流する機会を持っている。身体状況から全員での地域行事への参加は困難であるが、毎週木曜日に地域ボランティアなどの受け入れを行い、童謡やギターの生演奏に触れることは、入居者にメリハリと楽しみを提供している。また、中学生の体験学習をはじめ、法人全体で地域貢献にも努めている。法人係長や管理者は、地域の中の一人として運転マナーを含め、姿勢を正して業務にあたるよう指導している。	地域連携室を中心にした活動からも、年々ホームの存在や認知度も深まっており、今後も、入居者が地域とつながりながらその方らしい暮らしの支援を継続いただきたい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議や地域、施設行事での交流を図ることで認知症への理解や周知を行っている。また、中学生の職場体験の受け入れも実地しており、認知症高齢者に慣れ合ってもらっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では小規模多機能ホームと合同の開催となっている。施設の状況を知っていただき、地域の方とどのような面で協力できるか意見交換を行っている。	併設の小規模多機能ホームと合同で開催し、記録様式は総務・人事課で必要に応じて改定されたものを使用している。ホームの状況報告の後に、参加者がそれぞれの立場で、提案や質問、情報発信などを行っている。地域の情報を知ることは入居者の外出の幅を広げたり、地域の抱える問題などを知る機会ともなり、連携室を中心にしながら、出来る支援や対応が検討されている。運営推進会議は家族が意見を発言する機会でもあるが、毎回の参加には至っていないようである。	会議は2か月ごとに、会場もリビング食堂で開催されており、入居者やホーム内の様子も確認できるようである。記録書の出席者の欄には、それぞれの役職などを記しておくことで、発言の内容がどの参加者のものかわかりやすいと思われる。また、会議は地域と入居者を支えていく重要なものであり、家族の参加が得られるよう、引き続き働きかけを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に地域包括支援センターも参加して頂き、事業所の現状を伝えると共に校区内での情報を教えて頂く事で情報の共有を図っている。また、介護相談員制度を利用し、報告書を基に意見交換をサービスに反映させている。	地域包括センターより毎回、運営推進会議への参加が得られており、現状を知ってもらう機会となっている。また、介護相談員の受け入れを行っており、報告書に記された入居者の意見や要望など、サービスに反映させている。その他、行政へは相談事項などがあれば電話や直接役所へ足を運び、アドバイスや指導を受ける等良好な関係にある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	社内の研修にて拘束についての知識を深め、ケアを行う際は職員同士で拘束になっていないか確認し合い、定時的にカンファレンスを行いケアにあたっている。	社内研修で身体拘束や虐待について学んでおり、ホーム内の会議でも、拘束は絶対行わないことを周知徹底している。また、言葉の拘束についても、事例をあげながら共有を図っている。ベッドからの転落の危険性がある方には、低床にするなど対応策をその方に応じて検討している。家族へも拘束のもたらす弊害などを伝えている。報道等から得た拘束や虐待について、申し送りなどで意見交換も行っており、職員間でも言葉使いなど気になることは注意し合えるよう努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	社内で研修を行うことで、虐待についての知識の習得に努め、日々のケアの中で虐待にあたる物がないか確認しながらケアにあたっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	社内の研修にて権利擁護について理解し、ケアの中で実践できるように努めている。不十分な所は職員間で相互に指摘、話し合いを行うように努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	見学時より丁寧な説明を行い、契約時に契約内容に不安が無いように努めている。説明後に不明な点はないか確認し、ご理解を得た上で契約して頂いている。契約後も気軽にお尋ねになれるような関係作りに努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者、家族よりの要望、苦情、意見を遠慮せずに言ってもらえる様な関係作りに努め、意見箱の設置も行っている。頂いた意見は真摯に受け止め、運営に活かせる様に取り組み、取り組み内容をお伝えしている。	意見や要望が気軽に言えるような雰囲気や、出された内容については、速やかに対応することを全職員が共有し業務にあたっている。入居者の意見や要望は、普段の会話の中で聞き取っている。特に1対1の入浴支援は、ホッとされる時間でもあり、ゆっくり関わり耳を傾けるようにしている。家族の意見などについては、面会時やプラン作成時に尋ねる他、意見箱も設置しているが、活用されることは殆どないようである。ホーム内外の相談窓口については、契約時に説明を行っている。	意見や要望を真摯に受け止め、サービスに繋げていきたいとしており、今後は職員間で内容を検討したアンケートの実施も一案かと思われる。また、意見や要望に加え、入居者や家族から聞かれた言葉で、今後の励みに繋がるような一言も記録に残しておくことも良いと思われる。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ワークシートの導入を行い、毎日確認しながら業務を行い、ミーティングの際に話し合い変更、確認を行い運営に反映させている。また、代表者も定期的に事業所を訪れ職員と交流し、事業所の状態把握を行っている。	少人数の職員体制であり、意見や提案が出しやすいホーム環境を大切にしている。生活の質を重要視し、ワークシートの活用により、職員の意見や気づきを活かすことや、職員自身のレベルアップにも繋げている。また、教育事業部で資格取得のサポートも行われている。管理者は福祉部係長と連携を図り、共に業務にあたりながら、職員の特技を発揮したり、お互いを支えられる職場環境に努めている。また、代表者も機会あるごとにホームを訪れ、入居者や職員と会話し、意見などを確認している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者が定期的に事業所を訪れ、職員と交流し意見を言いやすい環境を作っている。また、人事考課の導入にて各職員が向上心、やりがいを持って業務にあたることできるように取り組んでいる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	人事考課を導入し、個別に現状の力量の把握、目標の設定を行っている。社内の研修や資格取得のための研修参加も行えるように配慮し、職員の質の向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	介護支援相談員受入施設の意見交換会に参加し情報交換を行うことでサービス向上が出来るように取り組んでいる。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所のあたり、本人、家族がどのような事で困っているか、どのような支援ができるかの聞き取りを行い、また、入所にあたっての説明をしっかりと行うことで不安なく入所して頂けるような配慮している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族が持っている困りごと、不安、生活に対する意向を相談が気軽に出来る様に挨拶や関わりを積極的にとることで関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族との面談、聞き取りにより困っていること、不安な事の把握に努め、他の事業所の利用も含めて説明し、問題解決が図れるように対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人のできることを把握し、洗濯物、おしぼりたたみなど出来る範囲で一緒に作業を行うことで共に生活を行っていく関係作りを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や電話にて本人の生活状況をお伝えすると共に、面会に来て頂ける様に家族参加できる行事なども行い本人を共に支えて行く関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人知人、友人の面会時に一緒にゆっくり過ごして頂ける様配慮している。また、同施設内のご家族の面会や受診時に自宅まで行ったり、他施設に入居されている家族への面会の支援を行っている。	家族や友人・知人の面会時には居室やリビングなどでゆっくり過ごしてもらえよう配慮し、次回の訪問も依頼している。また、受診外出時には自宅へ立ち寄りたり、他の施設への面会支援など大切な関係が途切れないよう努めている。中学生の体験学習時に、英語の本を読んでもらったり、書道を得意とされる方の居室の戸には、ご自身やご主人の名前の書が表札代わりに貼られているなど、これまでの経験が活かされている。	馴染みの人や場所に加え、趣味や特技、こだわりなどもこれに繋がる支援の範囲ととらえることで、入居者の生活により楽しみが増えると思われる。取り組みに期待したい。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーション時に利用者同士が交流できるように配慮し、他の利用者と相互に相手の把握が出来るようにしっかりお名前を呼び関係が構築できるよう努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後だっても気軽に相談が出来るように関係作りを行い、相談して頂ける事を説明している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の生活に対する意向の聞き取り、汲み取りを行うように努め、どのような支援が本人の希望するものなのか考え、カンファレンスを行いながら支援を行っている。	その方の望まれる生活を支援できるよう、職員は日頃の関わりの中で思いや意向の把握に努めている。また、定期的なカンファレンスの中で職員間で検討し、本人本位の支援をプランに繋げることができるようになっている。家族からの情報も重要であり、面会時や遠方の家族には、特に電話などで近況を伝えながら家族として本人の思いを聞き取るようにしている。入居者の中には発語が困難になってこられる方もおられるが、表情や日頃のコミュニケーションから推察し支援にあたる光景が見られた。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者1人ひとりの生活歴を職員で共有し、馴染みの暮らし方、生活環境に近い環境で生活して頂ける様に家族からの聞き取りや馴染みの物持ってきて頂きサービスを提供し経過の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1日をどのように過ごされているか記録にの残し、記録の内容を申し送り等で共有することで状態の把握を行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的に職員でカンファレンスをおこない、本人、家族より情報や意見を聞き、時にはカンファレンスに参加して頂きサービス内容を検討し介護計画を作成している。	本人・家族の意向や職員の意見・気づきなどを活かしたケアプランを作成し、入院や状態が変化した場合はその都度見直しを行っている。また、実際のケアが現状に即しているか記録に残し、見直しに反映させている。介護計画作成担当者は、家族にはケアプランの目的や重要性なども説明し、プランを見てもらいながら進め、了承を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアを行った事を記録し、記録の中でケアが現状に即しているのかも記録し、職員間で共有することで介護計画の見直しに反映している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個々の利用者、家族の対応が出来るようにアセスメントより必要である事、事業所で対応できる事を検討し出来るだけニーズに沿ったサービスの提供が出来るように努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	介護サポーターの方に定期的に来て頂いている。また、地域と連携し、地域行事に参加することで地域の繁栄と本人の楽しみを両立できるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人の馴染のかかりつけ医がいる方はそのまま継続して受診が出来る様支援し、希望がない場合は、心身の状況に応じた病院を紹介している。また、受診対応の際は主治医と意見交換することで適切な医療が受けられるように努めている。	本人・家族の希望するかかりつけ医を、職員が中心に受診支援しており、専門医をはじめ家族の相談に応じながら適切な医療支援ができるようにしている。また、訪問看護師による健康チェックや相談も24時間対応可能であり、ホームにとっても心強いものとなっている。職員はバイタルチェックや食事・排泄・表情など日頃の関わりの中で異常の早期発見に努めており、日中と夜間の状況についての申し送りを徹底していることが、聞き取りからも確認された。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護より週に1回健康チェックに来ていただき、24時間の連絡、相談が出来る体制を取っている。また、同建物内の看護師と連携し情報の共有、指導を受ける事で適切な受診や看護が受けられる体制を整えている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した際はすぐに病院行き病状の把握に努め、退院後の受け入れについて丁寧に本人、家族、病院に説明するなど情報収集を行い、安心して治療して頂ける様に配慮している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に事前意思確認書の取りを交わしを行い、重度化した際は、本人、家族と主治医との話し合いの場を設け、今後の病状の理解、事業所での看取りの説明を相互に確認できるように努め共通理解、方針の共有を行っている。また、他部署の看護師や、訪問介護、主治医と連携し支援を行っている。	重度化した場合、本人・家族の意向を確認しながら主治医との話し合いの機会を設け、方向性やホームの方針、できうる支援について共有を図ることとしている。高齢者を支えるホームであり、これまでもギリギリまで支援しており、職員のメンタル面へのフォローにも施設全体で取り組んでいる。急変時の対応については、AEDの取り扱いを含め、社内研修やミーティング時に周知されている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	社内研修やミーティングの際に定期的にAEDの取り扱い、急変時の対応方法の周知、職員への指導を行っている。また、緊急時マニュアルを作成し、職員が再確認できるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防の指導による点検を年に2回実施。また、防火の為に安全点検は毎日行っている。今年度「防災マニュアル」の見直しを行い、各事業所にも地震、風水害にきちんと対応できるよう整備を行った。地域との協力の点では校区(尾ノ上)での防災訓練への参加を予定している。	消防署の指導による訓練を昼・夜を想定し実施している。訓練後に受けた指導(防火扉の中に避難することなど)は、その都度職員間で共有を図り、次回に活かしている。今年度防災マニュアルの見直しが行われ、地震・風水害時の対応が適切に行えるようになっている。備蓄については3日分が確保されている。熊本地震では、建物に大きな被害はなかったが、自然災害の恐怖をあらためて実感し、運営推進会議でもささえりあ職員より、みなし仮設の定期巡視や校区の防災訓練などについても意見交換がなされている。	今後は運営推進会のメンバーと一緒に避難訓練を行う事も有効かと思われる。災害備蓄については、今後も必要な物や備わっている品を全職員で周知いただきたい。火災は火を出さないことが一番であり、台所や居室のコンセントの埃、喫煙スペース他、職員が意識をもってチェックできるような確認表などにより、安全管理に努めていかれることを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	社内研修にて、虐待防止、プライバシー保護について学び、利用者の尊厳と誇りを損ねないように敬語、丁寧語を基本とした言葉掛けが出来る様職員へ周知、指導を行っている。	「入居者を尊重し、生きがいや生活スタイルを大切に、一人ひとりのペースにあった支援」を掲げ、尊厳やプライバシーの確保、守秘義務の徹底についても研修会で周知されている。呼称はその方の好まれる呼び方を家族からも聞きながら対応している。また、人生の先輩でもある入居者への言葉使いや対応も失礼のないよう、指導や職員自身も振り返る機会を持っている。写真掲載など個人情報については、本人・家族に了承を得て使用している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常的に会話の機会を多く設ける事で本人の性格の把握に努め、本人の思い、希望を汲み取り、代弁できる関係を作っている。また、自己決定の促しを行うことで少しでも自己決定の機会が出来るように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日を過ごすうえで一人ひとりの生活のペースを大切にし、何か行う時も1つひとつ利用者に声掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に応じた衣類が切れるように助言、配慮し女性は爪の装飾や髪の設定、可能な方は化粧も楽しんで頂ける様に支援し、男性は朝から髭剃りを行って頂ける様支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員と一緒に盛り付けを行うことで食事が楽しみになるように配慮し、普段の会話の中で食事の嗜好などを聞き取り、おいしく食べて頂ける様に支援している。	法人栄養士が作成した献立を使用し、ホーム職員が調理を行っている。入居者が台所に立つ機会は殆どないが、盛り付けや下膳、味の評価などできることで食への関わりを支援している。また、誕生祝いのケーキ作りでは、果物のトッピングなどを一緒に行っており、毎回「チョット味見！」の一言が飛び出すようである。今年度初めての試みとして、事前準備を重ね実施された関連施設レストランでの外食支援では、普段食の進まない方も意欲的に食事を摂られたようである。食事の席は介助や見守り、自力摂取などに応じて決定しており、食形態も個々に応じて準備されている。職員は持参した弁当などを休憩を兼ねて摂っている。	洗い物の音については、急がせてしまうこともあり、ある程度食事がすまれてから取り掛かることが望ましいと思われる。また、自力摂取の方々のテーブルでも声掛けや見守りなど、開始時から職員の姿があることで、更に楽しい食事時間になると思われる。また、エプロンについては、首に負担のない使用方法に注意されることを期待したい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士の考えた献立を提供することで、栄養のバランスに配慮し、食事形態も適宜、本人の状態に合った物を検討し提供している。また、水分摂取の困難な方は代替品(ゼリー)等を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	1人ひとりの口腔内の状態に応じて毎食後、職員と一緒にやっている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	尿意のない方は定時で声かけし、トイレ誘導行いトイレに座って頂く事で排泄を促している。また、直接的な訴えでない時も表情、動き等でトイレか尋ねトイレ誘導を行なっている。	定期的な声掛け・誘導、表情やしぐさから察しその時々での誘導など個々に応じて排泄支援に取り組んでいる。布パンツやリハパンに尿取りの併用の方が殆どであり、日中はトイレでの排泄を支援している。夜間のみオムツやポータブルトイレの方もおられる。ポータブルトイレについては、使用ごとに始末し、毎朝のバケツの洗浄と、本体も週1回徹底して洗浄している。また、排便困難な方も多く、体操や個々に応じた水分摂取により予防に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便のチェックを行い記録している。排便が出にくい方へは、水分量を多めにとっていたり、牛乳や水分ゼリーを飲んでいただいている。また、体操を毎日行い便秘予防に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	出来るだけ本人の希望に沿い入浴を行い、個々の状況により毎日の足浴が必要な方へは足浴の支援を行っている。にまた、季節毎にゆず湯や菖蒲湯を楽しんで頂いている。	ホームの入浴は1対1で、職員との会話を楽しみながら、基本的に週2回の支援が行われている。失禁時はその都度、シャワー浴なども取り入れながら不快なく過ごせるようにしている。また、入浴以外にも風呂場か居室で毎日足浴を実施しており、安眠にも繋がっている。季節湯(菖蒲・柚子)を行う際は、2日間実施し、全員が楽しめるよう配慮している。	職員と1対1でゆっくりと入浴できることは、入居者にとっても何よりの時間と思われる。継続した取り組みに期待したい。また、脱衣所や浴室内の安全面からの整頓なども、気持ちよい入浴に繋がることから引き続き取り組まれることを期待したい。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	1人ひとりの生活習慣を生活歴や日々の様子から把握しゆっくりとマイペースで過ごすことができるように環境を作っている。夜間もゆっくり安心して休んでいただけるように声かけ、巡視などを行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬局に居宅療養管理指導導入で入っていた薬の知識、内容の把握に努めている。また、誤薬、飲ませ忘れが無いように職員2名で確認し、服薬支援時は本人と確認を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事や趣味活動など、本人が楽しみと思える事を提供し、利用者と職員で共有して一緒に楽しむ事で気分転換が図れるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	気候、天気の良い日は体調を見て希望をとり散歩へ出かけている。また、職員送迎での自宅訪問や他施設への家族の面会、地域の行事や外出行事、外食などの支援を行っている。	2階にあるホームであるが、季節の良い時期は努めて近隣の散歩や継続されている四つ角マーケットの見学など、入居者の状況に応じて支援している。初詣や紅葉見物など車を使った季節の外出も企画し楽しんでいる。ホームの外出においては、介護サポータの協力も大きく、入居者の外出の幅を広げている。また、自宅訪問や外食など個別の外出にも取り組んでいる。昨年9月庭先で開催された、「ゆうしん秋祭り」には、入居者全員が参加され、ボランティアによる三味線演奏や多くの人々との交流の機会となり、笑顔の時間となったようである。	ホームは商店や公園、食事処など外出に適した環境であり、今後も入居者の希望や身体状況に応じながら外出の機会を支援していきたい。また、県下でも有数の桜の開花を楽しめる桜通り(自衛隊通り)やけやき通りが間近にある環境である。入居者も桜の開花を楽しみにされており、楽しいひと時を支援していきたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人、ご家族の希望に応じ所持して頂いている。外出行事の際、使えるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族、知人の方からの贈り物がいただいた際は、お礼の電話をかけ交流関係が円滑に継続できるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	加湿器を設置し室温計にて確認を行い快適に過ごせるように配慮している。生花を飾ったり、季節ごとの行事に応じた飾りつけを行い居心地良く過ごせるよう工夫している。	入居者が食事やテレビ視聴、ゲームなどをする活動の中心である、リビング食堂は採光も良く、加湿器の配置などにより快適に過ごせるよう努めている。また、壁面や家族・職員の持ち寄った花を飾りながら、季節を感じてもらえるようにしている。気の合った方と談笑したり、一人でゆっくりしたい方など、その時々で適切な場所へ誘導を行い、席の配置は、身体状況や食事介助の有無などから決定している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビ視聴や利用者同士の会話ができる様にお好きな場所に座っていただき、思い思いに過ごせるよう配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に使い慣れた品物や家族の写真の持ち込みを依頼し、本人が住んでいた部屋と同じ空間で居心地良く過ごして頂ける様にしている。また、毎日掃除を行い整理整頓に努めている。	入居時にこれまでの生活に近い環境で過ごせるよう、使い慣れた物品や家族の写真などの持ち込みを依頼している。また、案内資料の中にも、生活の様子として、台所やリビング、居室風景なども紹介している。建物2階にあるため、どの部屋からも地域の様子が眺められ、職員の日々の換気や掃除により居心地よく過ごせる環境となっている。着慣れた衣類や帽子などが下げられた部屋、得意の書で自身の名前を扉に貼られた部屋など、その方にとって安心できる空間となっている。	今後も職員の工夫や家族の協力を得ながら、一人ひとりにとって居心地よく過ごせる居室作りに努めていかれることを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	出来る能力を把握し居室のネームプレートの字を大きくしたり、扉に本人の作品を貼るなど工夫をし安全に配慮しながら自立支援を行っている。		